

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 5年 3月24日

事業所名 タイムこどもデイサービスめろでい

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			2F和室を使用不可にして、クールダウンの部屋、更衣室、療育の部屋として使用した。
	2	職員の配置数は適切である		○		*曜日によっては職員不足を感じる *不安定な子がいるとき男手が必要と感じる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			*部屋ごとにクッションマットを敷き、バリアフリー化をはかる。 *トイレ前の洗面所にカーテンを付けてパンツ交換の際不便をしないように工夫した。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		支援の仕方などスタッフに伝えられてない事もあったので、情報を共有するよう努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			個々のニーズにしていねいに応えるように努めている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			3月末に法人HPに、4月にディ通信に掲載している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員会が行っている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			コロナで思うようにできなかったが、会議での研修やリモート研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別相談をした上で、会議で話し合い、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			相談支援のものを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			めろでい会議のときに話し合っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			帰りの会の時子ども達に紙しばいや絵本を読んでもらったり、ダンスをしたり工夫している。また、季節の行事を取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			おでかけの場所や、季節の工作・展示物など工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			お互いを意識しているがゆえの衝突に対して、個別・集団で行動している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		今年度もミーティングの機会がへりましたが、送迎の役割分担と、その日の大まかな内容や大事な情報は共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			職員は送迎後、個別記録を記入し、内容によってはスタッフと共に検証している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			全体日誌や、個別の活動報告書に記録をつけている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			相談支援員さんの見学、モニタリングを行い連絡をとっている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			季節に合わせ、いろいろ組み合わせで活動している。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		地震等の避難先を保護者にしっかり周知していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		管理者・児発管が相談支援と連携し行っている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	OTの助言・研修を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園で他のデイ、地元の子どもたちと遊んで交流をした。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際、保護者とめろでいでの様子自宅での様子をお話し、課題等については会議の時話し合い共有している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングの研修に参加し行っていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際、管理者が行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時、連絡帳電話などで必要な助言を行っている。また、相談支援と共にその内容に沿って対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナが緩和されてきたら開催していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情の窓口を設け、時には本部と連携し、真摯に対応している。保護者からのご希望に沿えるように心がけています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		デイ通信、たいむ通信を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	○		* 管理者のもと管理を徹底している。 * 私生活時も十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎の際、保護者とていねいに情報交換をして寄り添えるよう心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナで開催できなかった

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	<p>* マニュアルは事業所内に掲示していつでも確認できる様にしている。</p> <p>* 保護者との連携訓練はできていない。</p>
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年3回地震・水害・火災を想定しての避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修になかなか参加できなかったが会議で、グレーゾーン・不適切な行動について話し合いをしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		保護者に同書をもらい、個別支援計画に記載し、理解を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報を受け、おやつを選択、食後の清掃など細心の注意をはらい対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット用紙に記入し、その情報を周知共有し会議で再発防止を話し合っている。